

都市再生整備計画 事後評価シート
座間南東部地区

平成24年3月

神奈川県座間市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	座間市		地区名	座間南東部地区		面積	626.3 ha			
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	549百万円 国費率		0.4				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道10号線①、市道10号線②、市道13号線①、市道13号線②、市道16号線、市道37号線①、市道38号線、市道39号線、市道47号線①、市道47号線②、市道小松原7号線、市道小松原10号線、市道ひばりが丘67号線、市道ひばりが丘135号線、市道ひばりが丘137号線、市道南栗原91号線、市道南栗原113号線、市道南栗原133号線、市道栗原中央29号線、市道栗原中央79号線、市道栗原中央54号線、市道東原63号線、市道東原33号線、市道東原29号線) 地域生活基盤施設(地域防災施設)(ひばりが丘小学校屋内運動場、栗原小学校屋内運動場、東原小学校屋内運動場、旭小学校屋内運動場、栗原中学校屋内運動場、MCA無線(防災無線)、防災備蓄倉庫、耐震性貯水槽)										
		提案事業	地域創造支援事業(学校環境整備事業(栗原小学校、ひばりが丘小学校、旭小学校、栗原中学校)) まちづくり活動推進事業(社会実験(コミュニティバス(相模が丘コース)))										
	事業名												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(市道11号線、市道38号線、市道39号線、市道小松原10号線、市道ひばりが丘135号線、市道栗原83号線、市道南栗原118号線)				削除/追加の理由 ・市単独事業に移行したため削除。 ・用地交渉の合意が得られず、事業期間内での実施が困難となったため削除。 ・他の道路として整備することとしたため削除。 ・排水改良を目的とした他事業で施工し、事業が不要となったため削除。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 指標2「道路の整備状況満足度」、指標3「道路の安全、快適性の向上度」に関係するが、数値目標は据え置く。			
		提案事業	地域創造支援事業(学校環境整備事業(東原小学校))				市単独事業で対応するため削除。			指標1「防災対策の満足度」に影響するが、数値目標は据え置く。			
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(市道36号線、市道37号線②、市道小松原68号線、市道ひばりが丘120号線、市道ひばりが丘133号線、市道西栗原8号線)				交通の安全性、歩行者の快適性の向上のため追加。			指標2「道路の整備状況満足度」、指標3「道路の安全、快適性の向上度」に関係するが、数値目標は据え置く。			
		提案事業	—				—			—			
	交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—			—			
		変更	—		—		—			—			
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	防災対策満足度	%	8.7	H16	13.0	H23		13.9	○	あり	避難場所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了、耐震性貯水槽、防災無線、防災備蓄倉庫の設置を行った結果、満足度が向上し、地区内の防災機能が向上しつつある。	平成24年8月
	指標2	道路の整備状況満足度	%	10.2	H16	15.0	H23		29.4	○	あり	大型物流施設の進出による新たな交通集積への対応と、大規模商業施設の進出に備えた施設周辺の整備が実施されるなど、地区内の道路事業の進捗により、整備状況の満足度が向上し、円滑な地域交通が確保されつつある。	平成24年8月
指標3	道路の安全、快適性の向上度	%	30.8	H18	35.8	H23		31.7	△	あり	地区内の道路事業の進捗により、踏切改良、歩道改良、交差点改良などが実施された結果、道路の安全、快適性は向上したが、目標は達成できなかった。しかし、地区内の歩行者、車利用者の安全性、快適性は向上しつつある。	平成24年8月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	交通事故件数	件	337	H18				237			道路事業の進捗により、踏切幅や交差点・歩道改良などが実施された結果、交通事故件数は減少し、地域交通の安全性が確保されつつある。	平成24年8月
	その他の数値指標2	道路の快適性の向上度	%	—	—				52.5			工業地に住宅が進出するなど土地利用の変化による生産環境・生活環境への対応など、地区内の道路事業の進捗により、踏切改良、歩道改良、交差点改良などが実施され、道路の快適性が向上し、歩行者、車利用者の快適な交通環境が確保されつつある。	平成24年8月
	その他の数値指標3	公共交通の利便性の向上度	%	—	—				52.6			地区内でコミュニティバスの運行実験を行い、ルート見直し等を行った結果、公共交通の利便性が向上し、路線バスを補完する身近な公共交通が確保されつつある。	平成24年8月
その他の数値指標4	市民一人当たりの避難所面積	m ² /人	0.15	H18				0.30			避難場所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了により、市民一人当たりの避難所面積が増加し、耐震性を保持した避難所が増加しつつある。	平成24年4月	
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・防災備蓄倉庫整備により、自主防災組織がより実践的な防災訓練を実施することが可能となった。 ・通学路の整備について、住民およびPTAからの要望に基づき計画することができた。 												
5) 実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	都市再生整備計画事業に関する委員会の設置による事業のモニタリング				実施状況				今後の対応方針等			
						都市再生整備計画に記載し、実施できた ●				委員会等の組織づくりや、都市再生整備計画事業の様式によるモニタリングを活用したチェックを行うなど、円滑な事業の進捗を図るための体制を検討し、実施していく。			
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	都市再生整備計画に記載し、実施できた ●				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり体制の構築	市民による地域美化の推進等※1 市民による地域緑化の推進等※2				都市再生整備計画に記載し、実施できた ●※1,2 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				座間市まち美化活動の取り組みを促進し、参加者・対象地区の拡大を目指す(※1) 花とうるおいのあるみちづくり事業、花とうるおいのある緑地づくり事業の取り組みを促進し、参加者・対象地区の拡大を目指す(※2)			

様式2-2 地区の概要

座間南東部地区(神奈川県座間市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:安心して快適に暮らせるやすらぎと潤いのあるまちづくり ○都市基盤の整備により、安全性、快適性の向上、円滑な地域交通の確保、公共交通の確保を図ります。 ○地域防災施設としての避難所の整備を進めるなど、防災対策の充実を図ります。		防災対策満足度	単位:%	8.7	H16	13.0	H23	13.9	H23
		道路の整備状況満足度	単位:%	10.2	H16	15.0	H23	29.4	H23
		道路の安全、快適度の向上度	単位:%	30.8	H18	35.8	H23	31.7	H23

 <p>市道16号(西→東)</p>	 <p>市道13号①歩道(南→北)</p>		 <p>市道ひばりが丘120号(西→東)</p>	 <p>ひばりが丘小学校屋内運動場</p>
 <p>旭小学校屋内運動場</p>	 <p>市道13号②歩道(南→北)</p>		 <p>栗原中学校屋内運動場</p>	 <p>東原小学校屋内運動場</p>
 <p>市道10号②北側(北→南)</p>	 <p>市道47号②(西→東)</p>		 <p>市道13号①車道(南→北)</p>	 <p>栗原小学校屋内運動場</p>

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ■道路事業により地区内の生活道路整備が進み都市基盤整備が推進されたが、改善が必要な生活道路が残されており、引き続き整備を図る必要がある。 ■各小中学校の屋内運動場の耐震化整備が進んだことにより、避難所の安全性が確保され、また、耐震性貯水槽、備蓄倉庫、防災無線なども整備され、地域防災対策の充実が図れた。 ■耐震改修が未整備な避難施設が残されており、これらへの対応と、地域防災対策の更なる向上を目指し、防火水槽などの防災設備の設置を図る必要がある。 ■土地利用の変化に対応した、交差点改良、踏切改良、歩道改善といった道路事業の推進により、歩行者、車利用者の安全性が確保された。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ○交通の安全、快適性の維持向上 <ul style="list-style-type: none"> ・整備改善された生活道路について、機能を維持するための点検・維持管理に努めるとともに、歩行者、車利用者の安全性、快適性を維持向上を図るため、市民意向調査を踏まえた生活道路を中心とした道路整備を行う。 ○まちの防災機能の維持向上 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時等において、避難所としての機能を最大限に発揮するため、日常の点検及び維持管理に努めるとともに、避難場所としての機能の維持及び安全性の対応を図り、安心・安全なまちづくりの更なる向上のため、防災施設の整備を行う。 ○変化する生活環境への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・今後、想定される土地利用の変化に対応し、安全で快適な生活環境等を維持・向上させるため、市民ニーズを把握した中での取り組みを検討する。